

様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 22 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（A）
研究期間：2006～2009
課題番号：18202016
研究課題名（和文） 17－20 世紀の東アジアにおける「外国人」の法的地位に関する総合的研究
研究課題名（英文） The Comprehensive Research on Legal Positions of "Foreigners" in East Asia from 17th to 20th Century
研究代表者
貴志 俊彦（KISHI TOSHIHIKO）
神奈川大学・経営学部・教授
研究者番号：10259567

研究成果の概要（和文）：

多くの事例研究から、東アジアでは「外国人」を含む秩序やガバナンスの構築に対して、国際関係はきわめて重要な影響をもたらしていたこと、また「外国人」をめぐる法体系は、国家領域単位で画一化したものではなく、法の制定や執行は都市あるいは地域をベースとした多様かつ重層的なものであったことが指摘された。しかし、そうした多様性とは逆に、こうした法体系は、帝国日本の影響下で類似性があったことはもとより、じつは東アジア全域において、国家領域を超えたある種の法的連環という現象がみられたことも確認できた。

研究成果の概要（英文）：

From a lot of our studies, we could recognize that an international relation had extremely brought the important effect to the construction of the governance over "Foreigner" in East Asia. And we could point out that the system of law over "Foreigner" had been not made uniformed in the country but these laws systems had various patterns based on the city or the region. Moreover, we could confirm that there was a certain kind of phenomenon in which legal ream rings beyond a national area were constructed in East Asia. Of course, these rings were constructed not only under the influence of Empire Japan, but also in the whole areas of East Asia outside its area.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	6,300,929	1,890,000	8,190,929
2007年度	9,200,000	2,760,000	11,960,000
2008年度	9,400,000	2,820,000	12,220,000
2009年度	4,700,000	1,410,000	6,110,000
年度			
総計	29,600,929	8,880,000	38,480,929

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・史学一般

キーワード：トランスナショナリティ、外国人コミュニティ、領事裁判権、国籍法、出入国管理、混血児、東アジア、華僑

科学研究費補助金研究成果報告書

1. 研究開始当初の背景

研究にあたっては、申請者が代表を務めた①2002年度の基盤C・企画調査「不平等条約体制下の在華外国人問題の法的措置に関する国際共同研究—中国の都市と法—」、②2003～05年度の基盤A・一般「不平等条約体制下、東アジアにおける外国人の法的地位に関する事例研究」といった国際共同研究の成果に依拠しながら着手することになった。

これまでの研究事例をふまえて、外国人の法的地位をめぐる歴史的状况を比較しつつ、東アジアにおける外国人問題を体系化する段階に入ったと考えて、研究を発足させた。

2. 研究の目的

グローバル化が進展する中で、東アジア域内においても労働力移動や、海外在住者が増えた。日本では、人口減少の中で外国人移民の受け入れを容認する声や、外国人犯罪の増加からこれを回避するナショナリズムが高揚するなど、さまざまな現象が起こっている。こうした新たな社会現象にともない、ガバナンスの構築、法的な調整を含めた規範秩序の再構成という課題は東アジアに共通している。歴史学研究もこうした諸問題に対してその軌跡を検証することで、解決の糸口を提示することが緊急課題といえる。

3. 研究の方法

前近代から近代において、「他国人」「異邦人」から「外国人」として位置づけられた人々の処遇は、敵視→蔑視→保護→平等→人権主義というプロセスを経てきた。しかし、「外国人」問題の多様性を検証するためには、グローバル化下の移民問題を歴史的な文脈の中に位置づけ、地域間比較をはかることが必要である。

そこで、次の二点に注意したい。第一には、ホスト社会の体制やイデオロギーのなかであって、「外国人」が、法や慣習、地域秩序に如何に対応し、自らの生活基盤と帰属意識を作り上げていったのかを明らかにすること。第二には、彼らが海外に移住または滞在する際、「僑居」的な文化意識をもちつつ移動するという見方や、移動後も何らかの意味で母国のアイデンティティを固持し、ネットワーク化する存在であるとの見方を前提とはせず、それぞれに錯綜した現地住民意識をもち、それに応じて地政学的あるいは文化的な意味でのホームランドへの認識を変容させたことを析出することである。

4. 研究成果

本共同研究は、これまでの研究成果を、以下に見るように、海外で開いた多くの合同セッションで検証することを重視してきた。そ

うしたなかで、「異邦人」あるいは「外国人」を受け入れる社会や政府が複雑な対外関係のなかで、自国の秩序（ガバナンス）の構築を試みながらも、多くの困難に直面していたが確認できた。また、「異邦人」あるいは「外国人」の視点から、こうした事態を分析すると、彼らがこうした困難を克服するために、ホスト社会との関係を重視し、自らのアイデンティティを選択的に働かせてきたことが明らかになった。彼らのアイデンティティは、法的制度のなかで、比較的自由に組み替えることができたのである。同時に、こうした変化が、国家単位ではなく、都市や地域のネットワークのなかで形成されており、そこには東アジアにおける法的連環といった現象がみられるという新たな視点を提示できた。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計22件）

- ① 貴志俊彦、Effects on the Republic of China of the Collapse of the "Empires" after the First World War: Restoration of Sovereignty in the Former Concessions of Germany and Austria-Hungary、年報「非文字資料研究」、査読無、第6号、2010、近刊
- ② 陳來幸、神戸の戦後華僑史再構築に向けて—GHQ資料・プランゲ文庫・陳徳勝コレクション・中央研究院档案馆文書の利用—、開港都市研究、査読無、第5号、2010、近刊
- ③ 陳來幸、海外中華総商会的社会功能與其網絡作用、李培徳編『近代中国的商会網絡及社会功能』香港大学出版社、査読無、2009、147-167
- ④ 弘末雅士、港市ネットワークの形成と植民地化、春山成子・藤巻正己・野間春雄編『朝倉世界地理講座3 東南アジア』朝倉書店、査読無、2009、85-97
- ⑤ 弘末雅士、ミステリアスな現地妻（ニヤイ）—インドネシア民族意識の生みの母？、史苑、査読無、70巻1号、2009、1-11
- ⑥ Ho Dinh Duan and Mamoru Shibayama、Studies on Hanoi Urban Transition in Late 20th Century Based on GIS/RS、Journal of Southeast Asian Studies、査読有、Vol.46、No.4、2009、pp. 532-540
- ⑦ 高見澤磨、日本民法家我妻榮対中華民国民法典的注解、『第四届羅馬法、中国法与民法法典化国際研討会論文集』（下）、査読無、2009、651-656
- ⑧ 本野英一、清末民初における商標権侵害紛争—日中関係を中心に—、社会経済史学、

- 査読有、75巻3号、2009、3-21
- ⑨川島真、戦後初期日本の制度的『脱植民地化』と歴史認識問題—台湾を中心に、永原陽子編『「植民地責任」論』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、査読無、2009、393-417
- ⑩金鳳珍、韓日共通の思想課題、翰林日本学（翰林大学校日本学研究所）、査読有、第14輯、2009、63-86
- ⑪荒野泰典、近世の日本において外国人犯罪者はどのように裁かれていたか?：明治時代における領事裁判権の歴史的前提の素描、査読有、史苑、69号、2009、158-172
- ⑫弘未雅士、インド洋におけるムスリムが形成した港市国家-北スマトラの港市と後背地、自然と文化そしてことば、査読無、第4巻、2008、14-21
- ⑬菅谷成子、Chinese Immigrants in the Spanish Philippines: Looking through the Story of Hay Bingo or Juan Imbin of Taal, Batangas. 愛媛大学法文学部論集(人文科学編)、査読無、第23号、2007、49-62
- ⑭菅谷成子、スペイン領フィリピンにおける中国人移民社会の変容—異教徒の「他者」からスペイン国王の「臣民」へ、査読無、愛媛大学法文学部論集(人文学科編)、第22号、2007、153-174
- ⑮陳來幸、阪神地区における技術者層華僑ネットワーク—考・理髪業者の定着とビジネスの展開を中心に、山田敬三先生古稀記念論集刊行会編『南腔北調論集』松堂出版、査読無、2007、937-964
- ⑯陳來幸、三江会館の設立と新たな活動、神戸三江会館編『三江会館簡史』、査読無、2007、53-67
- ⑰川島真、日本占領期華北における留日学生をめぐる動向査読、中国研究月報、査読有、61-8、2007、4-18
- ⑱高見澤磨、中国近代における『私』の『法』制度化と『民』の『公』化、日本学術協力財団『学術の動向』査読無、12巻8号、2007、21-24
- ⑲高見澤磨、将人際関係符号化的法与作為行為定量評価的法、張中秋編『中華法系国際学術検討会文集』中国政法大学出版社、査読無、2007、419-424
- ⑳孫安石、戦前の外務省の中国への留学生派遣について、中国研究月報、査読有、9月号、2007、1-16
- ㉑貴志俊彦、長崎上海間「帝国線」をめぐる多国間交渉と企業特許権の意義」、国際政治、査読有、146号、2006、21-38
- ㉒貴志俊彦、第一次大戦後の在華外国人管理問題—条約未締結国国民の法的処遇をめぐって、アジア研究、査読有、第52巻第3号、2006、35-50
- [学会発表] (計40件)
- ①MOTONO Eiichi, The Market System in Late Qing and Early Republican Period, 1870-1919: An analysis of the Role of Foreign Merchants, The XVth World Economic History Congress, August 4, 2009, Utrecht University
- ②貴志俊彦、「東アジア外国人プロジェクト」の成果と課題、日韓ワークショップ「東アジアにおける移住民問題と国籍」、2009年5月2日、ソウル大学奎章閣
- ③松原孝俊、「敗戦国」ニッポンに帰りたくなかった日本人、同上
- ④川島真、日本の台湾領有と在シャム華人の動向—誰が台湾人/日本人なのか、同上
- ⑤陳來幸、北東アジアにおける華僑・華人コミュニティ—錯綜する自己認識と相互認識、同上
- ⑥貴志俊彦、利用「戦前中国境内内“外国人”人口統計数拠庫」的地域人口分析—針對民国・満洲国時期、探索租界研究的新的可能性—上海研討会—、2009年3月28日、上海・文廟
- ⑦孫安石、The North China Herald and Supreme Court and Consular Gazetteと日中関係史、同上
- ⑧Sugaya Nariko, Spain's Chinese Policy in the Early Modern Philippines, A Workshop on Chinese Immigration to the Philippines, Japanese and Korean Philosophies, and Source Materials for Asian Studies in Japan and the Philippines, 11 March 2009, Ricardo Leong Hall, Ateneo de Manila University, Philippines
- ⑨Kim Bongjin, Reception and Change of the Idea of 'Right(s)' in Nishi Amane: Comparison with that of Yu Kilchun, 同上
- ⑩Chen Laixing, A Comparative Perspective of the Overseas Chinese Societies in the Pacific Rim Regions after the 19th Century, 同上
- ⑪ARANO Yasunori, Judicial Trials for Foreigners in Late Premodern Japan: The Historical Precedent for Granting Jurisdiction of Foreign Consuls, The Netherlands and Japan Workshop on Academic Exchange about Asian Identities —The Comparative Study of the Legal and Social Status of Foreigners in East and Southeast Asian Countries during the 17-20th Centuries —、28 August 2008、オランダ: Leids Universiteitsfonds
- ⑫KAWASHIMA Shin, The Long History of a

- village of Jinmen Island: a Consideration Based on Qiaobao and Local Newspapers、同上
- ⑬ HIROSUE Masashi、The Rise of Indonesian Nationalism and Mixed Marriage between Indonesians and Europeans -Free Love, Concubinage and Marriage、同上
- ⑭ SHIBAYAMA Mamoru、Hanoi Urban Transition in 19-21 Centuries, an Area Informatics Approach、同上
- ⑮ Ousmanova Larissa、National communities of the Russian Diaspora in Harbin: the Türk-Tatar Muslim National Community、ウラジオストク合同セミナー、2008年7月29日、ウラジオストク：科学アカデミー
- ⑯ 小林聡明、北朝鮮におけるソビエトの存在とプロパガンダ映画、同上
- ⑰ Olga Bakich、Russian Life Stories at Harbin after the End of WW2 Viewing from My Own Experiences、科研共同研究セミナー：ハルビン—異種混交の街—、2008年7月12日、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
- ⑱ Ousmanova Larissa、ハルビンにおけるロシア系ディアスポラの民族コミュニティ：タタール人コミュニティを中心に、同上
- ⑲ 小林聡明、在日朝鮮人メディアとプランゲ文庫、ワークショップ「プランゲ文庫と東アジア」、2008年6月7日、みなとみらいKUポर्टスクエア
- ⑳ 川島真、戦後初期在日中国人・台湾人留学生の動向—プランゲ文庫内史料に見る—、同上
- ㉑ KISHI Toshihiko、The Dynamic State of the Foreigners in Pre-War China by Using the Variable Demographic Statistics Database、International Joint GIS - IDEAS and PNC/ECAI Conference 2008、6 December 2008、Hanoi University of Technology
- ㉒ CHEN Laixing、Overseas Chinese Business Network in East Asia: beyond the Institution and Rivary、International Conference on "Foreign" Communities, Immigrants, and Influence in Modern Asia、2008年5月26日、香港・バプティスト大学
- ㉓ KAWASHIMA Shin、Dialogue between Diplomacy and Immigration: introduction on a Qiaobao(僑報) of Jinmen Island until 1949、同上
- ㉔ SUGAYA Nariko、Chinese Life in the Spanish Philippines: The Colonial 'Others' or the Spanish 'Subjects'、同上
- ㉕ Kim Bong-Jin、An Essay on the Approach of Colonial Modernity to the Korean Colonial Period、同上
- ㉖ KISHI Toshihiko、"The influence of the Empires' collapse in East Asia after World War I: The recovery of Chinese "sovereignty" in the old Germany, Austrian - Hungary and Russian settlements"、Japanese - Austrian Workshop on Cultural Exchange、September 3, 2007、Institute for East Asian Studies、University of Vienna
- ㉗ KAWASHIMA Shin、"The Sino-Austrian Relationship in Waiwu-pu era (1901-1911): An illustration by Chinese Diplomatic Archives、同上
- ㉘ HIROSUE Masashi、"The Changing Intermediary Role of Indonesian Concubines between the Local and European Communities at the Turn of the Twentieth Century、同上
- ㉙ KOBAYASHI Somei、North Korean and Chinese POWs in Korean War - US Psychological Warfare and CIE Orientation Program、同上
- ㉚ Kim Bong-Jin、Reception of the Concept of 'Right(s)' in Modern Korea: Yu Kil-chun' s Case、The 10th Annual International Conference on Conceptual History、August 30-September 2, 2007、Turkey: Istanbul Technical University
- ㉛ KISHI Toshihiko、Fusion and Crack btween Cultural Policy and Placation Ploicy in Manchukuo、満洲学会第15回学術大会、2007年8月24日、韓国・安東大学
- ㉜ 豊見山和行、「従属的二重朝貢論」再論—近世琉球の国家的位置をめぐって—、同上
- ㉝ 荒野泰典、環太平洋から見る「琉球処分」—19世紀後半の日本・琉球・ハワイ—、同上
- ㉞ 川島 真、僑郷としての金門島と『僑刊』史料の可能性—1920—40年代、日本台湾学会第9回学術大会、2007年6月2日、アジア経済研究所
- ㉟ 本野英一、20世紀初頭の日中間商標権侵害紛争、国際学術シンポジウム2006「越境する人と法—上海・台湾・香港・シンガポールの場合—」、2006年7月29日、早稲田大学大隈記念会館
- ㊱ 王泰升、多源かつ多元的な台湾法—外来法の在地化、同上
- ㊲ 呉偉明、戦前香港における日本人コミュニティの形成、同上
- ㊳ Teow See Heng、1941年以前の植民地シンガポールにおける中国人、日本人、同上
- ㊴ 朱益宜、日本占領下の香港スタンレー捕虜収容所、同上

④孫安石、日本占領下の上海と外国人の処遇問題—敵国人集団生活所について、同上

[図書] (計4件)

- ①大里弘秋・貴志俊彦・孫安石編、御茶の水書房、中国・朝鮮における租界の歴史と建築遺産、2010、326 (1-77)
- ②貴志俊彦・谷垣真理子・深町英夫編、東京大学出版会、模索する近代日中関係—対話と競存の時代—、2009、342 (229-248)
- ③貴志俊彦・土屋由香編、国際書院、文化冷戦の時代—アメリカとアジア—、2009、281 (11-29、255-269)
- ④川島真・貴志俊彦編、山川出版社、資料で読む世界の8月15日、2008、230 (69-80、105-116、143-154)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

貴志 俊彦 (KISHI TOSHIHIKO)
神奈川大学・経営学部・教授
研究者番号：10259567

(2) 研究分担者

荒野 泰典 (ARANO YASUNORI)
立教大学・文学部・教授
研究者番号：50111571
小風 秀雅 (KOKAZE HIDEMASA)
お茶の水女子大学・大学院人間文化研究科・教授
研究者番号：90126053
柴山 守 (SHIBAYAMA MAMORU)
京都大学・東南アジア研究所・教授
研究者番号：10162645

高見澤 磨 (TAKAMIZAWA OSAMU)

東京大学・東洋文化研究所・教授

研究者番号：70212016

川島 真 (KAWASHIMA SHIN)

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授

研究者番号：90301861

本野 英一 (MOTONO EIICHI)

早稲田大学・政治経済学術院・教授

研究者番号：20183973

弘末 雅士 (HIROSUE MASASHI)

立教大学・文学部・教授

研究者番号：40208872

松重 充浩 (MATSUSHIGE MITSUHIRO)

日本大学・文理学部・教授

研究者番号：00275380

孫 安石 (SON ANSUK)

神奈川大学・外国語学部・教授

研究者番号：30321954

陳 來幸 (CHEN LAIXING)

兵庫県立大学・経済学部・教授

研究者番号：00227357

菅谷 成子 (SUGAYA NARIKO)

愛媛大学・法文学部・教授

研究者番号：90202126

片岡 一忠 (KATAOKA KAZUTADA)

高知学園短期大学・教授

研究者番号：50092515

(H18→H21：連携研究者)

寺内 威太郎 (TERAUCHI ITARO)

明治大学・文学部・教授

研究者番号：50217410

(H18→H21：連携研究者)

横山 伊徳 (YOKOYAMA YOSHINORI)

東京大学・史料編さん所・教授

研究者番号：90143536

(H18→H20：連携研究者)

松原 孝俊 (MATSUBARA TAKATOSHI)

九州大学・韓国研究センター・教授

研究者番号：20150378

(H18→H20：連携研究者)

豊見山 和行 (TOMIYAMA KAZUYUKI)

琉球大学・教育学部・教授

研究者番号：40211403

(H18→H20：連携研究者)

井上 治 (INOUE OSAMU)

島根県立大学・総合政策学部・教授

研究者番号：70287944

(H18→H20：連携研究者)

(3) 連携研究者

小林 聡明 (KOBAYASHI SOMEI)

大阪市立大学・文学研究科・博士研究員

研究者番号：00514499